



ぐんぐんすくすく！相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘4丁目5-5
電話 0791-23-5070 FAX 0791-22-7211
E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

◆『思春期の心を開く力～心の痛みを軽くみてないか～』（八ツ塚実 著）

生んでくれてありがとう ～母と子の絆～

「お母さん、ぼくを生んでくれて、ありがとう」
 毎年、スミオは、誕生日に母に向かってこう言う。スミオの家では、誕生日はこの言葉を母に言う日に決めている。
 世の中一般的な誕生日は、その日に生まれた人がまわりから祝ってもらう日になっている。「お誕生日、おめでとう」
 こんな言葉を浴びせられる。主人公は生んでもらったこと。生んだ人の存在はかすんでしまっている。
 子どもの場合、王子様が王女様のような扱いを受ける。生んだお母さんは、紅茶だ、ケーキだ、小間使の役に回っている。招待された子どもたちも、お客さま然として、生んだお母さんへのねぎらいの言葉はない。
 「命を生み出す」母の尊さに着目すれば、いまはよりの誕生日の風習は、少しおかしい。本末が転倒してしまっている。
 最初に母への感謝があつて、その後で健やかな成長を祝うというのであれば、それが本来の誕生日というものである。
 誕生日は、まず「母への感謝の日」であるべきだ。
 スミオの家ではこれが見事に守られている。素晴らしい親と子の関係だった。
 私がスミオと出会ったのは、三年生の担任として、彼を学級の一員に迎えた日だった。

(中略)

スミオの家で、毎年誕生日に繰り返されるこの言葉は、父親が言わせていたのである。お父さんは、幼い日から、息子のスミオに、こう教えていたのだという。
 「誕生日は、お前がおめでとうと言ってもらう日ではないんだぞ。お前が、お母さんに生んでくれてありがとうと感謝する日だ。お母さんは、お前を命がけで生んでくれたんだ。そつでなかつたら、お前は今の世にいない。だから、誕生日には、お母さんに感謝するんだ」
 乳児期には、乳児に対して。幼児期には、幼児の言葉で。小学生になると、小学生の言葉で。中学生になると、より対等に。スミオの父親は、息子に語り聞かせたのだろう。素晴らしい誕生日教育といわざるを得ない。

(スミオとの後日談)
 スミオの結婚式に招待された八ツ塚実先生はお祝いのスピーチでこう言ったそうです。
 「スミオ君。タカコさん。今日は二人に、おめでとうとは言わないよ。私は、おめでとうの言葉を、お二人のお父さん、お母さんに向かって言います。今日はそういう日だと思つています。これからの歳月中で、親がどんな想いで自分を育ててくださったか、つかみ取るのです。」



【やつづかみのる】 公立中学校教師。30年にわたって、「人間科」の授業を実践した。母の介護のため定年まで7年を残して、53歳で退職し、63歳で亡くなる。

■臨床心理士による『相生っ子悩み相談』（要予約）

- 11月8日(金)と11月22日(金)
- 12月13日(金) ※12月は1回のみです 午後1時～5時
- (※原則毎月第2、第4金曜日)

■育成支援室職員による教育相談もご利用ください。

- 来所相談 毎週 火曜日～金曜日 13:00～16:00
- 電話相談 毎週 月曜日～金曜日 10:00～16:00
- (ただし、祝日は休み)

※一人で抱えこまずお気軽にご相談ください。
 ※問題に立ち向かうための元気づけ、勇気づけができればと思っています。

友達に言えないこと、
 両親に言えないこと、
 先生にも言えないこと、
 ひとりで悩んでいないで、
 気軽に電話してください。

小・中・高校生
 保護者・ご家族の皆さん
 もどうぞ。

心をこめた仕事

心をこめた仕事は
 生きている
 ゆかの上に
 こぼれたバケツの水の飛びしずくを
 あなたがていねいに
 ふいてくれたことだって
 ちゃんと
 わたしの心の中に
 生きている

学校教育の成果

学校教育の成果が、一番
 はっきりあらわれてくる
 のは、子どもが、教師の手
 を離れ、家庭に帰ってから
 のあり方ではないか
 と思う。子どもが教師の手
 を離れ、家庭に帰ってから
 のあり方が変わってこな
 い様だったら、学校教育は
 ほんものではない、という
 ことだ、と思うのだ。

よろこび

ひとりのよろこびは
 みんなで 大きくして
 よろこび
 ひとりのかなしみは
 みんなで わけあって
 小さくして 背負いあおう

【とおい・よしお】「いのちの教育」の探求に尽くした日本の教育者。兵庫県豊岡市但東町佐々木に生まれる。小学校教師として村を育てる教育を実践。ペスタロッチ賞、平和文化賞、小砂丘忠義賞、文部省教育功労賞受賞。

◆ こどもを犯罪から守るための 「ながら見守り 835 (ハチサンゴー)」

犯罪のない、安全で安心な「あいはら」の実現に向けて
 わたしたちにもできることがあります

～声かけよう うちの子 よその子 みんなの子～

ながら見守り 835 (ハチサンゴー)

「ながら見守り」とは、日常生活を送る中で、防犯の視点に立って子どもたちを見守る活動です。いつもの行動時間を、子どもの登下校時間に変えるだけで子どもの安全につながられます。

「ながら見守り」
 で大人の目が
 増えれば...

「大人が見守ってくれているから
 安心だねえ、でも、自分たちも悪い
 ことはできないなあ」

「誰かに見られていそうだから、
 こいゃ、とても子どもには
 手が出せないぜえ」



日課の犬の散歩や
 ウォーキング、
 ジョギングなどを
 しながら...



徒歩や自転車、
 車を利用して
 買い物を
 しながら...



通勤の途中や
 バスを待ったり、
 待ち合わせを
 しながら...



農作業や花の水やり、
 庭のお手入れや
 玄関先のお掃除を
 しながら...

ハチ
 朝 8 時
 サン
 昼 3 時
 ゴー
 タ 5 時

「おはよう」「行ってらっしゃい」
 「こんにちは」「おかえり」
 「もうかえろうね」「さようなら」

「おはようございます」「行ってきます」
 「こんにちは」「ただいま」
 「ありがとう」「さようなら」